

# 海外派遣留学プログラム 帰国報告書

記入日	2023/7/20
所属学部・研究科・学府	文学部行動科学コース
所属学科・専攻	社会学科

## 1. 留学先について

留学先大学名	上海大学							
留学先所属学部等	語学生(コロナ禍によるオンライン留学のため)							
留学期間	出発日	2023/3/26	入学日	2022/9/7	修了日	2023/7/6	帰国日	2023/7/8
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	<input type="checkbox"/> その他( )					
	通学時間	30分				On campus		
	通学方法	スクールバス						
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室	( ) 人部屋		<input type="checkbox"/> その他 ( )			
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input checked="" type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	<input type="checkbox"/> その他( )	
食事	自炊	0 %	学食	20 %	外食	75 %	その他	5 % ( 出前 )
保険	海外旅行保険(名称)	JTBTータルサポートプログラム Gプラン						
	留学先国・大学指定の保険(名称)	なし						加入必須
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄				上海(飛行機)			

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	903,610 円								
出どころ									
自費	<input type="checkbox"/>	貯金	円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
援助	<input type="checkbox"/>	親	円	<input checked="" type="checkbox"/>	家族・親戚	903,610 円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/>	JASSO	円	<input type="checkbox"/>	その他名称( )		<input type="checkbox"/>		円
その他	<input type="checkbox"/>	その他( )							円

### 2-1. お金の管理方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/>	現金	200,000 円	<input type="checkbox"/>	その他( )	円
留学中	<input type="checkbox"/>	海外送金	<input type="checkbox"/>	キャッシング	<input checked="" type="checkbox"/>	その他 ( 銀行から電子マネー )

### 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	電子マネー
住居にかかった費用	電子マネー
その他	電子マネー、初週は現金

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			160,000	円
JTBトータルサポートプログラム (海外旅行保険・危機管理サービス)			57,510	円
その他の保険料			0	円
査証・在留許可証			8,500	円
住居	元	13,720	274,400	円
光熱費			0	円
食費	元	12,440	248,800	円
通学に要する交通費	元	170	3,400	円
教科書, 教材費			0	円
その他大学に支払った経費	元	50	1,000	円
その他 ( 交際費 )	元	7,500	150,000	円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 ex. 正規, 聴講	単位数	単位互換認定 申請の有無		
1 高級汉语写作3	正規	2	有		無
2 高級汉语阅读3	正規	2	有		無
3 商务汉语3	正規	2	有		無
4 高級汉语视听说3	正規	3	有		無
5 高級汉语读写A3	正規	6	有		無
6 愛情社会学	聴講		有		無
7 人口社会学	聴講		有		無

### 3-1. 授業科目の選択, 登録方法

先生が個人チャットでシラバスの写真を送ってくれ、そこから何を受講したいかを返信した。また、聴講(単位認定無し)は、交渉の末聴講許可証を発行してもらった。ただ、この形は本当に特殊で、①そもそもコロナのせいで交換留学から語学生になった②渡航しても書類上の所属は語学生のままだ③交渉の末、語学生という、本科とは異なる所属・キャンパスでありながら、大学本科の上級中国語コース群の中から選んだ授業を特別に履修してよいこととなった④同じく本科の社会学関連の授業を聴講してよいこととなった、という背景のもとの形式である。

### 3-2. 授業内容, 方法に関して

1. 語学を学ぶ授業。オンライン留学で所属が語学研修となってしまったため、本科開講の授業に移してもらえるように交渉した。文化や労働基準法を通して語学を学ぶ。基本的に4年制留学や交換留学生を対象にしている。2. 社会学の授業。オンライン留学で所属が変わったため交渉して聴講した。3. 千葉大学の授業。前期のみ開講の必修科目があったため、オンラインで受講させていただけるよう交渉した。中国の授業は基本的に講義型で、たまにグループ課題ならびにそのプレゼン発表がある。テスト週間にテストが集中しているので、日ごろからコツコツ勉強できない自分は地獄を見た。

### 3-3. 語学力について

ある程度の語学力を身につけてから語学を学ぶ授業も受けたが、新しく覚えることも多かった。社会学の授業は、パワーポイントを用いながら先生がしゃべっていたため、そのパワーポイントを記録し、わからないところはあとから見返した。日常会話で困ることはなかったが、知らない単語は逐一中国人の友だちが教えてくれた。

### 3-4. 図書館など学内施設について

寮と授業のキャンパスを離してしまったため、空きコマは図書館のトーキングスペースにいたり、空き教室にいたりした。食堂は本キャンパスだけで5つあり、朝から夜まで空いているため、飽きることがない。学校の周りにも、様々なお店やバーがあるため賑わっている。体育館もそれぞれのスポーツに合わせて何個もあるので、スポーツも十分に楽しめる。スターバックスや湖、原っぱもある。とにかく広くて、電動バイク必須(いつも誰かのバイクの後ろに乗っていた)。

### 3-5. その他

特になし。日常会話で新しく知った単語は簡潔にでも急いでメモする。

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

家賃の上昇が青天井なため、覚悟が必要。中国の高校生、大学生は、家がどこであれ寮に住むのが基本だが、四人部屋や五人部屋、そして政府が税金を突っ込んでくれているため安い。留学生である私は高額一人部屋を与えられ、二人部屋や本キャンパスの四人部屋に変えることもできたが、四か月しかいないため悠々とそこで過ごした。基本的に何の不自由もないが、冷蔵庫が共用なのが耐えられなかったが、自炊を一切しなかったため、無関係だった。

### 4-2. 食生活について

真ん中ほどの物価はなく、だいたいめちゃくちゃ安いめちゃくちゃ高い。そのため、自炊は全くせず、普段や友達と軽くご飯に行くときは200-500円のご飯、たくさん食べてたくさん飲むときは5000円ほど、週末におしゃれなミシュランのランチに行くなら10000円と、毎回食費の振れ幅が大きい。中華と言えど国土は広く、さまざまな味の特徴を持つが総じて油っぽいので温かいお茶などを一緒に飲むとよい。

### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

脅威的なQR決済社会なので、スマートフォンのことを第一に考えた生活が必須。ギガは予算が許す限り購入し、モバイルバッテリーは持ち歩くか借りるかは必須。また、そういった生活をスムーズに送るために、スマートフォン内の各種アプリと銀行カードの情報、ID(パスポート)を紐づけておく必要がある。また、中国企業、政府の企業のアプリしか使えないので、ラインやインスタ、グーグルを使いたかったら必ずVPNを購入しておく。領事館が何かをおすすめしていたのでそれがいいと思う。無料VPNは全く使えない物にならない。

### 4-4. 服装について

日本とほぼ同じ四季だが、より寒くより暑い。私は夏に行ったので、ノースリーブと、特に日傘が必須だった。

### 4-5. 健康管理について

健康第一です。物価もとても高いかとても安いので、よく食べ、そして授業時間が長いので、その分よく寝る。

### 4-6. 保険、危機管理サービスの利用について

小指の爪が全部はがれてしまうケガをしたが、治療費がそれほど高くなかったため自費負担とした(利用していない)。

### 4-7. 課外活動について

学校行事の文化祭では異文化交流すべく全世界の出し物があった。ヘナタワーやテキーラもあった。日本もビールを売ればよかった。また、正規留学生から語学生まで、とにかく中国以外の国籍所持者向けに、博物館に行ったり方言を学ぶ課外授業も週末に一度参加した。個人的に行ったものとしては外部の教室にダンスをしに行った。講師のプロダンサーは、14億人の中で上り詰めたプロだけあってとても上手だった。

### 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

ナンパばかり。だが、日本では無視しても、留学生として中国語をしゃべる機会を無下にできないので、全部ついていったり約束をした。本当に疲れた。あとは、親戚に10年ほどぶりに会えたことがうれしかった。いつまでも長生きしてほしい。ナイトクラブには違う学校の同期がいたが、上海大学の方がやはり話が合う。

### 4-9. 日本から持参してよかったもの

特に日用品と衣服以外もっていかなかった。同じく日本人の留学生に同じ質問をしたところ、「お茶漬け」と言っていたが、私はせっかく留学に行くなら現地のご飯を食べるのが好ましいと考える。

#### 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

本当に必要最低限の物しか持っていかなかったため、不要なものはなかった。ただ、現地でショッピングをしすぎて物が増えてしまったため、両親の協力がなければ帰国準備が悲惨だった(飛行機の規定量を大幅にオーバーしていた)だろう。

#### 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

物事をきわめて直接的に言う。声がうるさい。おおざっぱ。しかし、おおざっぱということは細かい決め事がないため、交渉の余地があるということ。物事を自分優位に進めたいとか、自分の考え、主張が強い人には向いているし、相手に合わせてばかりで自我がなかったりすると舐められてしまうと思う。

#### 4-12. 余暇の過ごし方

##### 旅行

上海からは出なかった。親戚が会いに来てくれた時の(彼らと隣室の)ホテルや、上海にある家、友だちの寮の部屋、友だちの実家など、外泊はした。予定された長期の外泊の際、寮の受付にひとこと言う必要がある。

その他 \*気分転換やストレス発散法など。

ネットフリックスを見る、カラオケに行く、友だちとお酒を飲む。ただ、そんなにストレスが溜まったり、転換しなければならない気分になることはなかった。サークルを、ダンス、バレエ、バドミントンと掛け持ち、よく体を動かしたのはよいリフレッシュとなった。

#### 5-1. 留学先大学について

いい大学。本キャンパスは上海だが、ほどよく田舎で、のびのびしたキャンパスライフが送れる。全員やさしい。「社会学部はいい学部だよ」と自己紹介の度に返される。寮のあったキャンパスは、いわゆる「山手線の内側」で、(本当は4号線の内側)かなり便利。正直本キャンパスに毎平日通うはめになっても、こっちの寮でよかったと思える。こちらのキャンパスでは、「そっちは映画学部が有名だよ」と言われる。上海大学のおかげでタダになるものとしては、日本人が思いつく、博物館や美術館だけでなく、例えばグッチの展覧会、ナイトクラブの入場とドリンク代などがあり、学生の活動の幅を広げていると思う。ただ、それらのURLが貼られるようなアプリには、正規留学以上でないと入れないため、現地の生徒にあやからなければならない。

#### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

事前準備と呼べる、語学学習や書類準備などの作業も大切だが、一番大切なのはバイタリティだ。たとえば日々の日常で、二泊三日の旅行から帰宅し、靴を脱いだ瞬間に「飲みに行こうよ」と誘われたら断るかもしれない。しかし、留学中にそういうお誘いがきたら、すぐにも靴を履きなおすべし。少しでも多く人と交流し、一言でも多く言葉を発することが最も大切で、それを実現するためには、バイタリティひいては体力が重要要素である。事前準備でその国の文化や言語の理解を深め、体力も使い切る覚悟で、いかなる誘いも断らない！頑張ってください！

#### 5-3. 留学を終えて

卒論にて日中の比較を行うために、上海という自身にゆかりのある土地で調査を行いたく、千葉大に上海大学との交換留学があるので、それを利用することにした。

交換留学の申請を行い、上海大学に留学出来るために必要な中国語検定5級もとった。

幸運にも申請が通ったので、期待に満ちていたが、コロナ禍の影響でオンライン授業となってしまう、千葉大の授業の間隙を縫って授業を受けることになった。

千葉大の授業を受けつつオンライン留学も出来るという、ややラッキーな状況で数か月を過ごしていた。オンラインでも色々知識を得ることはできたが、パソコン越しの画面の小さい授業と共に、質疑はあるものの、一方的に向こうから話されている授業には少しフラストレーションを感じていたのも事実だった。

しかし、ほぼ3/4ほど留学の期間が過ぎたあたりで、コロナによる渡航規制緩和がなされ、現地で授業を受けられる可能性がでてきた。

対面になったことで、初期の面談で千葉大学に伝えた授業と異なる点から行きたい気持ちがとても強かった。時間的な問題で、留学ビザの獲得が可能かどうか不明な状況だったが、兎に角申請してみて、運よく現地での留学が可能になり、3/26に希望に満ちあふれて上海に向かった。

連日、6:30に寮をでて、23:30に寮に着くというかなりきつい授業やサークル、調査などのスケジュールだったが、実際、語学の授業と社会学の授業をとり、千葉大学の授業もオンラインで受講した。文化祭などたくさんの課外活動にも、コスプレをしたりしながら楽しんだ。

対面で授業を受けることは、大変刺激となり、授業が終わったあと、留学生仲間と飲食も出来て、色々話すことができた。又、試験前は、留学生仲間と徹夜をして勉強をしたりもした。これこそ、現地留学の醍醐味であった。このような活動の機会が余り日本でもなかったコロナ世代の私たちにとって、またとない機会だったことは言うまでもない。試験もいい成績で通ることができ、無事卒業することができた。現地の友だちから、卒業と送別の花束を貰い、涙を飲んでお別れした。出身も文化も違うが、確かに私たちは一生ものの友だちになった。